

トランプMAGA政策vs.欧州経済・規制パワー —シナリオと展望—

中央大学総合政策学部教授 庄司 克宏

- *少数派になったリベラル・デモクラシー
- *トランプを独裁者とみる欧州諸国
- *勢いを増す右派や極右勢力
- *EUのトランプ関税への対抗策は何か
- *各国に温度差があるウクライナ支援
- *想定されるウクライナからの避難民
- *対米でのデジタル赤字が続くEU
- *ブリュッセル効果への影響を考える
- *「全会一致の罨」をいかに打開するか
- *共同防衛のための超国家的軍隊は可能か



山縣 それでは開会いたします。（拍手）

講師をご紹介します。今日は中央大学総合政策学部教授の庄司克宏先生にお越しいただきました。

庄司先生は慶應大学で長くヨーロッパを専門とされて教鞭を取られてきましたけれども、2021年に中央大学に移られて現在の職をなさっています。

Jean Monnet Chairというのは、ヨーロッパのEU委員会（コミッション）が認めております内外の研究者で優秀な業績をあげている人に与えている称号ですけれども、先生は Jean Monnet Chair じゅらんとしゃいます。

実は今回先生をお呼びしたのは、2月14日にバンス副大統領がドイツのミュンヘンの安全保

障会議でヨーロッパの首脳の前に極めて無礼で傲慢な演説をしているのを見て、私はどうしてアメリカの副大統領がけんかを売ろうかなことをこんな場所で話すのだろうかといへん驚きまして、庄司先生にこの辺のお話をしていたのかなきやいけないんじゃないかと思った次第です。

トランプ大統領が登場してから権威主義的体制がアメリカで起きまして、いろんな驚くべき変化があるわけですが、その中でもこれは本当だろうかと思うのは、アメリカの政権がむき出しの敵意をヨーロッパに示して、欧米の長年の同盟関係というのはいったいどうなってしまうのか。そもそも何でこんな事態が起きているのかということをおもも知っておく必要が